

神崎町

マチュア・ソサエティ を用いたワークショップ 報告書

目次

- ・「くらし」分野の施策アイデア
…2ページ
- ・「しごと」分野の施策アイデア
…13ページ
- ・「そなえる」分野の施策アイデア
…25ページ
- ・「まちづくり」分野の施策アイデア
…33ページ

町職員、住民、中学生が自らの手で自らのまちの施策を生み出す試み

令和7年3月～7月の間、4回に渡って神崎町において、まちづくりゲーム「マチュア・ソサエティ」（『成熟社会』の意味）を用いたワークショップが開催されました。

マチュア・ソサエティは、まちの人口減少を食い止めるため、

「**A：くらし**」（市街地整備、上下水道、交通、医療、教育・生涯学習、男女共同参画）

「**B：しごと**」（商工会連携、観光開発、食の開発・販促、地産地消、地域外からの収益）

「**C：そなえる**」（防災、防犯、備え、子育て、高齢者支援、障がい福祉）

「**D：まちづくり**」（自治会、町内会、ボランティア、地域活動、交流活動、新たなコミュニティ、勉強会）

…の4分野について、施策の提案をしていくゲームです。参加者は、互いの提案する施策を真剣に評価し合い、高い評価を受けた人が高得点を獲得していきます。

ゲームには町職員や住民、中学生が参加し、和気あいあいとした中であって、真剣に施策提案が行われ、各会場では最終的な最多得票アイデアも決定しています。

以下では今回の会議で提案されたアイデアを上記の4分野別に記載します。

- ※1 4分野は、記入した参加者本人による定義を重視したが、明らかに異なるものは本稿作成者が分類しなおした。
- ※2 明らかな誤字は修正しているが、多少な行政の語として通りが悪くても、原文そのままの形（話し言葉等）を生かしている。
- ※3 なるべく文意をくみ取りつつも、どうしても判読不可能なもの、断片的なもの、取組にふさわしくないものについては掲載していない。



交通網・公共交通・都市計画関連

町職員提案

● 「道路網の整備」事業

- ・町内、南北の道路網はあるが東西方向の道路がない。防災対応に役立つ。道路整備担当課（町・県）。
¥、億単位かな。

● 「適切な土地利用」事業

- ・不適切な土地利用により生活環境が悪化しているので、土地利用制度を定める。住みやすいまちづくり。
都市計画担当課（係）をつくる（上位機関と調整）。¥、ノウハウがあればあまりかからない。

● 「一」事業

- ・バスが不便。無人の車で本数増やす。

● 「一」事業

- ・駅前にゆっくりする喫茶等をつくる。電車の本数を増やす。足の悪い人が電車に乗れるように2番線ホームに行く道を考える。

一般住民提案

● 「コミュニティバスの増便」事業

- ・「若者が暮らしやすいまちづくり」をコンセプトとし、高校生が通学に利用できるバスを増やす⇒今住んでいる若者を流出させない。

● 「神崎町を通る幹線道路の充実」事業

- ・車が通る道を広くする。道路の周りに草木が多く生えすぎている。

● 「住民タクシー」事業

- ・ムダな人件費。ガソリン代。車の維持費。現状の町内のバス→あまり町民の意見反映難しい？朝見たら誰も乗ってない！！利用したい人も（ニーズに合う）、運転手側も（自身の車、おこづかい稼ぎ）良いのでは？？住民も観光客も交流。

● 「一」事業

- ・住宅地の造成。目的：人口を増やす。流出を防ぐ。

● 「一」事業

- ・町にオンデマンドバスを導入（バスとタクシーのいいとこどりをしたもので、自分が指定した場所に迎えに来てくれる相乗りタクシー的なもの）。高齢な方の足となる！バスの本数少なくて不便を解消！オンデマンドバス事業をやる民間会社の強力。

● 「一」事業

- ・オンデマンド、AI活用、町内外バス。リクエストによるバス運行。電話もOK！インターネット、AIを駆使したスケジュール管理。コースは町内、近隣の病院等。交通弱者を救う。

●「交通を増やす」事業

・電車などの数を増やして、人が行き来しやすいようにする。

●「電車の本数を増やす」事業

・今は1時間に1本→1時間に2本、3本。移動が楽になる。Over sleep しても耐えられる。みんな助かる！！高校生、安心できると思う。

●「電車の数を増やす」事業

・1時間に1本だと不便。人やものの行き来を盛んに。神崎町にアクセスしやすい。発酵マラソンの時に混雑していたし。たくさん人を呼ぶ。

●「電車1時間に2本に」事業

・2030～35年までにできてほしい。これは、成田の人と佐原の人の駅関係者と交流し、話し合っしてほしい。工事が必要だから、お金が6,000万～1億必要だと思う。

●「―」事業

・「町にあるスーパーやコンビニ他のお店を増やして、買い物しやすくする」をコンセプトとし、町を、もっと暮らしが便利な町にして、町の人口を増やす。町の人口が増えることで、町が発展する。予算500万円ぐらい。

●「―」事業

・道路をきれいにする。まだ道路が砂利の道のところもあると思うから。でこぼこの道だと通りたいと思えないから。

●「―」事業

・自転車専用道路をつくる→車と自転車の事故が起きない→車も自転車も待たなくて済む。事故が減る。早く安全に移動できる。予算1,000万～2,000万。

●「―」事業

・こうり（※読み取り困難）からの坂道がでこぼこしているので、きれいにしたい。予算500万円。

●「―」事業

・①鉄道などの交通網を充実させる。②神崎にたくさんある丘にニュータウン（住宅地）をつくる。

●「―」事業

・交通。無料で乗れるバスなどを町でやる。スクールバスなども町でやったりする。

●「―」事業

・電車の本数を増やす。10分に1本電車が来る。

●「―」事業

・神崎町は道が狭いので、道を広げる。また、成田や佐原といった栄えている市が近いので、そこにつながる道にする。神崎町はひとつひとつの道が狭く、1台の車しか通れない道が多いので、もっと広げることで、通りやすく、交通面でとても便利になると思いました。また、道を広げることによって、成田や佐原の架け橋となりやすく、通ることで神崎町の良さが分かり、人口の増につながるのではないかと思います。

● 「一」 事業

- ・「交通量を増やす」をコンセプトとし、「神崎から世界へ」をスローガンとし、電車を1時間4本にする。

● 「一」 事業

- ・「通学バスをつくる！」をコンセプトとし、用事があって車で送り迎えができない人や、暑くて自転車が嫌な人などが使えるようにする。小・中学生のみ無料でOK！！予算400万くらい？神崎町教育委員会がサポートする。

● 「一」 事業

- ・道路や踏切を広くする。1台ずつ→不便（車が多く並んでしまう）。お金を集めて工事をする→より暮らしやすくなる。

● 「一」 事業

- ・最近事故が多発している。歩行者にとっても車を運転している人も不安だと思う。だから、信号機を設置した方がいいと思う。そうすれば、安全でバリアフリーな環境がつけられると思う。それに、子どもにも安全を与えることができる。信号機を付けることで、安心感を持たせることができると思う。交通の便を解消できる。急いでいる時に安全。費用200万。

● 「一」 事業

- ・道路の増やして、車が走りやすく交通の便を良くする。費用800万。

● 「一」 事業

- ・ボロボロの道を整備する、メンテする。メリット、走りづらかった道が走りやすくなる。定期的にメンテしているので、壊れにくくなる。地震が起きて壊れても、すぐ対処ができる。事故が起きにくくなる。町の安全が守られる。900万。

● 「一」 事業

- ・電車の数を増やす。

施設・設備・環境関連

町職員提案

- 「空き家（古民家）の回収、リノベーション補助金」事業
 - ・ 4分の1補助。上限250万（10軒分）。2,500万。
- 「一」事業
 - ・ 農業用排水路が汚れているので、流れをスムーズにしてもらいたい（下水道含む）。
- 「一」事業
 - ・ 町民の憩いの場の提供と景観の整備。天の川公園の管理にもっと予算を。道の駅と連携。予算200万円。

一般住民提案

- 「田畑の住宅で農業体験」事業
 - ・ 「共同の畑を市街地に設け、お年寄りと子どもと一緒に農業を学ぶ！」をコンセプトとし、区分けした建物の周りに田畑をつくり、週に一度みんなで育てる。子どもが食の素晴らしさに気付くだけでなく、世代間のつながりをつくる！
- 「酒蔵公園」事業
 - ・ 「子ども同士の交流で地元愛！つながり深める！親同士も交流できる場で情報共有」をコンセプトとし、酒蔵モチーフの遊具で神崎町らしさを出す。秘密基地のようにワクワクできる場所で、子どもも大人も交流！
- 「公園整備（天の川公園とか）」事業
 - ・ 目的：人がのんびり過ごせる場の創出。地域内の交流の場の創出。日陰もありつつ、子どもを連れたり友人同士でピクニックに行けるような公園をつくる（お花いっぱい）。また、その整備をリタイアした方や地域の方々が（親子とか誰でも）水あげに行くなど、自分たちで花の手入れをして、地域内の交流の機会もつくる。
- 「観光開発」事業
 - ・ 「JRでも便利！！駅前～発酵の里までの開発 お酒も楽しめる！」をコンセプトとし、内容：車で来なくても神崎町を楽しめるように、駅前にコンビニや駅から発酵の里までの移動手段（バスや直通タクシー）を整備。予算：5,000万。
- 「一」事業
 - ・ 発酵浴・温浴施設。

●「**体育館にクーラーを付ける**」事業

- ・どんな学校も避難所になりやすいし、もしもの時のために用意するのは大事だから。また、暑さで体育館を使えない日もあるので、公立よく体育館を使用するためにも、体育館にクーラーを付けることは大事だと思う。

●「**子どもが遊ぶ施設を増やす**」事業

- ・この町には、子どもが集まる場所（遊び場）が少ない→子どもだけが集まれる場所を増やす（学童以外）。
内容：夏の暑さなどに備えて室内施設。場所：車通り（道路）が激しくないところ。日光が当たる場所。
予算 3,000 万円くらい？

●「**小・中学校の体育館にエアコンをつける**」事業

- ・部活などで使う時に、暑くて熱中症にならないように。温暖化のため、教育委員会が出す。予算 2,000 万。

●「**—**」事業

- ・子どもたちが遊べる公園をつくる！！家族の幸せを増やす！予算 500 万。みんなが遊べるようにする（バスケットコートなど）。

●「**—**」事業

- ・Building small living apartments for the people who can't afford house's.（お金がない人のために、小さなアパートを建てる）

●「**—**」事業

- ・ふれプラの市民プールを豪華にし、夏は一般の人も使えるようにする。入場料 700 円、町民の場合 300 円。交流の場もでき、運動もできる。夏休みに家でこもる人もなくなる。プールができれば。その周辺も涼しくなる。予算 1,500 万円。

●「**—**」事業

- ・大人を対象として、健康な体をつくるために、月に 1 回小・中学校のグラウンドを開放する。予算 0 円。

●「**—**」事業

- ・小さい子どもが遊べる場所や、大きい図書館などがある大きい施設をつくる。避難所にもする。

●「**—**」事業

- ・神崎中学校の体育館の設備をもっと良くする。テニスコートを増やしたり、体育館を広くする→昼休みや休み時間にたくさんの人が広々と遊べる。体育も部活も充実する。外部活も、雨の日に体育館で練習できる。できることの幅も広がる、国、県、町が負担する。

●「**—**」事業

- ・中学校の体育館にエアコンをつける→つけた場合、夏の運動会練習や、外が暑くて体育ができない時、涼しく練習ができる。全校で集まる時も、全てに対応できる。体操服がベタベタしない。熱中症になる人も減る。快適に過ごせる！予算 5,000 万。

●「**—**」事業

- ・総合施設。体育館、プール、ジム、会議室等。スポーツイベント、ジェッツを呼んだり、大会の会場（子どもの大会に親はついてくる。食事や買い物する）。幼児が遊べる遊具。じゃぶじゃぶ池無料。ドッグランなど。キッチンカー来る。200 億？

● 「一」 事業

・「事故を防げるように」をコンセプトとし、「事故を減らそう」をスローガンとし、年に1回交通設備の確認と、水道管。予算500万。神崎町がサポートする。

● 「一」 事業

・きれいな水場をつくり、みんなで遊んだりできる場所をつくる。小さい子どもでもできる場所もつくる。開放日は、時間10時～17時。週5。月、水、金、土、日。みんな来やすい。予算200万円。

● 「一」 事業

・みんなで楽しめるアスレチック。みんなで集める。

● 「一」 事業

・公園以外にも子どもたちが遊べる場所を増やす。

● 「一」 事業

・「親同士、子ども同士の交流 小さい子が人との交流に慣れるようにするため」をコンセプトとし、「人との交流を深めよう」をスローガンとし、児童館をつくる。地元商工会青年部がサポートする。

● 「一」 事業

・階段の隣や近くにスロープをつくる。車いすの人や障がいのある人が生活しやすい町になる。

教育関連

町職員提案

● 「教育」 事業

・小・中学生がふるさと神崎を自慢できるような教育活動を位置づける。まちづくりで重要な発酵を中心に、地域の方々に講師に招いて、町を誇りに思うような教育を展開する。町を出ることになっても、ふるさと納税等で貢献はできる。町民の方々にも町の良さを知っていただく。

● 「一」 事業

・「神崎町のことを知る」をコンセプトとし、「もっと知ってみよう町のこと 発酵のこと」をスローガンとし、発酵にテーマとして町政に取り入れている。給食にも反映されている。家庭でもっと普及してみたい。内容を生かしたい。予算年100万。生涯学習など調理（ぶくぶく）がサポートする。

一般住民提案

● 「夢見るコミュニティ・スクールの実現（教育）」 事業

・背景：学校、地元学、総合学習導入、先生の負担大。小学生から算数嫌い。内容：①「学校運営協会」の設置。②地域と連携した総合学習をともに企画・評価。※小学生、生徒提案あり。③理系大学と連携した理科系学習支援。効果：先生等の負担軽減（人材探し、副教材づくり）。神崎ならではの特色ある教育の実現。

● 「一」 事業

・「教育」をコンセプトとし、少人数をデメリットではなく、個人個人に合わせた教育。町の自然を生かした授業を取り入れる。

●「一」事業

- ・教育・生涯学習。現在、神崎小、米沢小と2つ小学校があるが、米沢小は人数が少なく、集団での活動が難しいほど（1学年1桁の子どもとかもある）。町の予算を考えると、神崎小への統合が望ましいのではないかと思う。が、米沢小を大切に思い、守りたい人もいるし、少人数ならではの教育の良さもある。どう理解を求め、どうしていくのがベストなのか、よく話し合うことが大切。だが、少子化は進む。いずれは決着をつける必要があるのも事実。

●「一」事業

- ・学校や子どもたちへの生き物、食べ物への関心を高める教育。自然環境をより良くする、残していく。今ある価値、自然の偉大さに気付けるような指導。

中学生提案

●「子どもたちへの教育で、屋外学習を増やす」事業

- ・「子どもたちの将来を深く考えるきっかけをつくる。」をコンセプトとし、自分の趣味や得意なことを将来に生かすために屋外学習に行き、仕事や世の中について勉強する。

●「ふれプラに勉強部屋をつくる！」事業

- ・「勉強する場所を変えた方がやる気が上がる」をコンセプトとし、気分転換に必要。佐原にもあるけど、移動代がもったいない！

●「小学生や中学生の学力を高めるため教育施設をつくる」事業

- ・学生たちが集中して学習できるような場所をつくる。図書館や塾。

●「学生の障がい者の方との交流を増やそう」事業

- ・「やさしいまちづくり」をスローガンとし、普段障がい者の方と会うことが少ないと思うから、交流会を通してコミュニケーションを取ったり、障がい者との接し方を学べるから→ふれプラで、小・中学生と障がい者で行う。学校での総合の時間として行う。内容、ミニゲーム。

●「小・中学校合同勉強会」事業

- ・頭が良くなるから。小学生と中学生の仲を深めたいから。

●「誰でも行ける勉強会」事業

- ・いろんな人と話しながらコミュニティを増やして行って、交流を増やしていきたい。勉強会。

●「神崎町に勉強施設をつくろう！」事業

- ・特に中学生、なかなかやる気が出ない人がいるんじゃないか？教え合いもできて、集中してもできる場所があるといい！場所は中学校の近く。神崎町にはこんないい施設があるんだ！って、来てくれる人もいるかもしれない。人口増加。

●「歴史を知る勉強会」事業

- ・「今自分が住んでいるところが、昔はどうだったのか知るため」をコンセプトとし、「昔を今に生かす」をスローガンとし、ずっと地元に住んでいる方に、どんな状況だったのかを聞く。外国の方には多言語用のパンフレットなども用意する。パンフづくり：商工会講師、昔から住んでいる詳しい方がサポートする。

●「勉強会をしよう！」事業

- ・「町のみんなで頭が良くなるため（町のこと、社会の勉強）」をコンセプトとし、「みんなで楽しく勉強会をしよう」をスローガンとし、月に1回、ノートとペンだけ持ってくる。予算300万。町の学生の人サポートする。

●「勉強会をしよう！」事業

- ・苦手な教科を大人などに聞く。月に1回、受験などがある人。

●「小・中学生（町内の）に図書カードプレゼント！」事業

- ・神崎町内の小・中学校に通っている人（全員！）に、1年に1回、1,000～2,000円の図書カードを毎年プレゼント→本を読み、学力アップ！！読まない本をふれプラの本棚（図書館など）に！

●「交流活動」事業

- ・4月の進学した後、小・中学校で昔の遊びをやる（地域のおじいさん、おばあさんたちと）。理由は新しい生活に慣れるため、新しい友達をつくるため。小学校。

●「一」事業

- ・「学習が好きになるまちづくり」をコンセプトとし、「楽しく学んでいく」をスローガンとし、内容：ふれプラで自習室の開放。目的：家で1人でやるのもいいけど、いろいろな人と交流しながら楽しく学ぶこと。予算：30万円。教育委員会に依頼。

●「一」事業

- ・他の学校との交流を増やす（交流を増やして神崎の良さを伝える）。神崎の発酵食品をお土産として渡す。予算10万円。

●「一」事業

- ・勉強会を開く。中学生を対象に、土・日に参加したい人は参加できる勉強会を開く。不参加でもOK。長期休みにも開く。

●「一」事業

- ・テスト期間中などに勉強でき、料金を無料にし、誰もが行きやすい場所をつくる。

●「一」事業

- ・もっと成績を上げたい人や受験生などのために、ふれあいプラザで週に1回ほど勉強会を開けば良いと思う。中学校の先生やOB、OGに教えてもらう。

●「一」事業

- ・ふれプラとかで勉強会を開いて、誰でも参加できるようにしてやる。

医療・健康関連

町職員提案

●「医療」事業

- ・町の病院状況を知りたい。他の市町村へ行くのが大変なので（高齢なので）。

一般住民提案

—

中学生提案

●「医療」事業

- ・「町民みんなが健康なまち」をコンセプトとし、月に1回ワクチン接種の場をつくる。マスク or 消毒液、除菌シートを配る。病院（クリニック等）をつくり、何かあった時すぐに寄れるようにする。もしもの時の応急処置の方法教室も、ワクチン接種の後にする。予算 500 万～1,000 万。

●「訪問型健康診断」事業

- ・「みんな健康に！」をコンセプトとし、足が悪い人など、簡単に健康診断。みんなの家に行けるような勢いで、お金もなるべく安く。健康だった人にはお菓子や広報に掲示。

●「町民の医療費を負担する」事業

- ・「いきやすく、住みやすく、みんなしあわせ」をスローガンとし、いつ、何があるか分からないし、住みやすくするため（特に、40～50 歳など、まだ負担していない世代）。予算 2,500 万。

●「病院を増やす」事業

- ・少しだけ病院はあるけどほとんどないので、佐原、成田などに行かないといけない。小さい子どもがいる人たちは遠いところまで連れて行くのが大変だから、近くにあった方が楽に行ける。体調がすごく悪くて車にあまり乗ってられない人などは、短時間で行ける方が楽。

●「—」事業

- ・誰もが自由に医療を受けられるようにする→ワクチンや健康診断等を気軽にできる。

●「—」事業

- ・病院、獣医を増やす。+イベントのようなもの。神崎に住んでいるのに、なぜか佐原の病院に行ってしまう。神崎に来てもらうために、少し安くしたり、人をなるべく待たせない。室内の改造など……薬を飲みやすくする品物。

●「—」事業

- ・「緊急車両が少ない時間で通れるような道をつくる。」をコンセプトとし、大型病院と神崎を結んで、ドクターヘリの時間を削減する。提携した病院を増やす！！

●「—」事業

- ・医療技術をもっと発展させる。

●「—」事業

- ・医療施設をつくる。町民からお金を集める。

その他

町職員提案

- 「一」 事業
 - ・交通の便。病院を増やす。
- 「一」 事業
 - ・学校を1つにまとめる。駅の周りに住宅、スーパーがあると良い。

一般住民提案

- 「教育・交通」 事業
 - ・少子化…生徒少ない→早く合併を。小さい時から多人数の中で育つことが、社会に出た時役に立つ。交通が少ない…対策を。
- 「一」 事業
 - ・神崎町には病院が1つしかなく、それも完全営業ではないので、住民福祉のために、他市町の病院と提携して安心安全なまちづくりをする。交通インフラを整備する。交通手段は、タクシーと循環バスしかないのでデマンド方式を採用し、町民の利便性向上を図る。上水道の加入促進を図る。
- 「一」 事業
 - ・ショッピング施設（モールではなく立体的な商店街）。駐車場。空港と東京からのアクセス。バス、鉄道。歴史的な町の風景で郷愁を誘う。発酵、手仕事、自然の見せ方。
- 「一」 事業
 - ・ごみの分別を細分化して、リサイクル、リユースの意識を高める。空中散布の中止、オーガニック給食。より良いまちづくり。移住者増加につながる。
- 「一」 事業
 - ・援農のサポーターをつくるシステム→F Bとかグループラインとか。耕作放棄地を減らしたい。お米不足の不安を解消のため、お米農家さんのお手伝いをする橋渡し役をつくる。体験することで、担い手が生まれる可能性あり。また、お米を少し分けてもらえたら生活に対する不安も減り、幸福度が上がる。やりたい気持ちはあるけど、誰に聞いたら良いか分からない。コネがない。学生さんは交通費がきついらしいので、交通費だけ支給できたら良いのでは。
- 「一」 事業
 - ・教育、交通。
- 「一」 事業
 - ・「みんなが安心して暮らせる家づくり」をコンセプトとし、内容：オーガニックな家をみんなで作る。目的：みんなが好きなことにチャレンジできる環境づくり。お金や食べ物の心配がない。

● 「ごみ収集日を増やす（週4日）」事業

- ・町がきれいになる。家にごみがあることが少なくなる。見栄えが良くなって、町に来る人が増える。仕事が増える。ごみの日が仕事で、捨てられない日を減らすことができる。気持ち良くなって、みんな楽しく暮らせる。予算 180 万円。

● 「—」事業

- ・ Maybe someone's life could be better if they decrease the prices of products. (製品の価格を下げれば、誰かの生活はよりよくなるかもしれない)。



商業施設・観光・特産品・食・レクリエーション関連

町職員提案

● 「発酵の里力の向上」事業

・発酵関連事業を始める、または新商品の開発に係る事業者に補助金交付。2分の1補助、300万。

● 「発酵×オーガニック」事業

・町のブランディング、独自性をコンセプトとし、観光振興、農業、食育（オーガニック）、子育て支援（学校給食）。予算1,000万。

● 「一」事業

・文化財を活用した観光開発をし、神崎の良さを発信する。インバウンドを取り込み、豊かな自然をアピールする。予算1,000万。

一般住民提案

● 「都内でマルシェに出店（地域外からの収益）」事業

・目的：どれほど神崎町が唯一無二の魅力を持っていたとしても、そもそも神崎町への認知がなければ定住や観光は生まれない→まずは神崎＝発酵・オーガニックが伝わるような商品を、人の多く集まる都内で販売、その歴史、人柄、特徴を踏まえながらお客様にPRする。

● 「特産品売り場への出店」事業

・特産品を都内の大きな駅にある特設スペースで販売する⇒「神崎町」という名前の知名度を上げる。JR東日本がサポートする。

● 「地域産業の連携」事業

・「神崎町の魅力を日本に！」をコンセプトとし、内容：地域産業（オーガニック作物や発酵食品）を一元化して、町内外、農作物やこだわった食品を売る企業に売り込み、お店の一角に神崎町コーナーをつくってもらうことで、知名度UPを図る。ターゲット：良いものを食べたい人々、神崎町に住んでいない、まだ知らない人。

● 「神崎の発酵体験ツアー」事業

・酒蔵だけではなく、米や畑など土ベースの発酵、味噌やお豆腐などの発酵食品づくり体験（企業や町民同士で協力して体験の場をつくる）。町の魅力を体験を通じて感じていただける。町の人直々のツアーにすることで、地元ならではの人や場を知れたり、実際に住むイメージを持ちやすい。

● 「地産地消」事業

・神崎町でつくられた農作物（特に有機、オーガニック発酵ビレッジ宣言）を、保育所、小・中学校の給食材料として使用していく。農家にとっては出口ができ、確実な収入へとつながる。有機農業の研修や、流通、保管、人材（人件費）を町が予算を組んでサポートする。発酵食品も町で加工所をつくって製造できたら、なおヨシ。

● 「町の施設（プラザ）や道の駅の活用（地域のために!）」事業

・他の市町村でも行われているように、オープンに施設を貸したりして、ワークショップ（料理でも勉強会でも）、使いやすくする。道の駅に出品したりも！（製造許可）わくわくも道の駅も温泉が（観光客も!）あったら、外の人もマラソンの人も、地域の方も集うはず!!

●「民宿事業・空き家ホテル」事業

- ・「宿をつかって観光客に存分にお酒を飲んでもらう！」をコンセプトとし、内容：空き家を活用し、リノベして宿泊施設にする。メリット：雇用も生まれる。空き家問題も解決する。移住の体験へとつなげる。

●「発酵わくわくランド」事業

- ・「道の駅」を町の売店集合場に！！情報を発信地で観光につなげる！

●「飲食店の誘致（簡単に複数店舗を）」事業

- ・おいしいものがたくさんあると人が集まる。道の駅に15店舗分の箱ものを町が用意し、飲食店をやりたい人に格安で提供する（売り上げの5%の賃料）。始めたい人は低リスクでスタートできる。町は町外からの人の流入も得られる。何なら空き家も提供する。ダメなら即撤退して次の候補者へ。いい店は長く続き、収入も確保。

●「スーパー銭湯を誘致」事業

- ・サウナ、流行っているし、あると嬉しい。最近好きだから町にもほしい！佐原にもないのでつくっちゃおう。風呂の種類、飲食、マッサージも充実させて、町外からのお客を多く生み出そう！！人気が出れば客が増えて、その周りにも施設が増えていくはず。町内の雇用も増える。税収も増える。予算数億。

●「レンタルキッチン（道の駅で）」事業

- ・目的：外から人を呼ぶ。地産地消の推進。道の駅にレンタルキッチンをオープンすることで、ある程度集客が見込めるので、レンタル率が上がる。そのお店のファンが来てくれれば、新しい層へのアプローチが可能。また、道の駅の野菜を使ってもらえれば地産地消にもつながるし、もし廃棄野菜あるなら生かせるかも？

●「食の開発」事業

- ・味噌、醤油、酒、発酵食材を使った「食」を開発する⇒町の活性（商工会）。道の駅のレストラン。販売。発酵の里神崎の知名度UP。

●「道の駅の活性化」事業

- ・道の駅に温泉施設。市場の充実化。鮮魚、青果。子どもたちの遊びの場。ドッグラン。

●「一」事業

- ・観光開発。バイク神社建立。キャンプ場。発酵バーガー。お出掛けの目的地に。

●「一」事業

- ・道の駅を核とした観光振興により、地域外から多くのお客様を呼び込み、事業者の収益を上げる。道の駅から天の川公園、神崎川、利根川を通るハイキングコースを整備する。農商工連携により、6次産業を活性化し、町オリジナル商品を開発し、広く拡販する。N A Aのさらなる機能強化に参画して、町の活性化を図る。

●「一」事業

- ・神崎道の駅にラーメン山岡家を呼ぶ（誘致）。夜の活性化。

●「一」事業

- ・地域（神崎町）の特産品をつくり、神崎町産の農産物を活用して、できれば新しい野菜などで、町の業者さんの手で加工して、町民みながおいしいと思える特産品づくり。

●「一」事業

- ・調味料をまかなう。味噌を自作している人は多いが、醤油は難しいので、町内で自作したい人が集まって、みんなで1年分の調味料をつくる。使われていない蔵の活用。その他調味料も。余ったら販売する道も考える。たくあん、梅干し、保管。

●「一」事業

- ・道の駅周辺の充実。多くの人に来てもらう。道の駅だけを充実させるのではなく、それに隣接した多目的な場所をつくり、人の出入りを多くする。公園や、町の飲食店やキッチンカーなどが入れるような場所をつくる。それと同時に多くのイベントを行う。

●「一」事業

- ・耕作放棄地を活用して、移住（農業者、自給農業者）を増やす！空き家、放棄地をマッチングする（これも仕事）。オーガニックビレッジの町にブランド米、野菜などをつくり、作付けを増やす。自給率100%目指す！120%も！！田畑を宝に！！

●「一」事業

- ・食の開発。商店街の活性化。

●「一」事業

- ・公募による「食」の開発をやる資金は100万円税金を投ずる。観光開発で人を集める＝四季の花とサイクリングで町の魅力を伝える。

●「一」事業

- ・B品→粉末スープ。

●「一」事業

- ・道の駅が何とかならないか……。もっと風通しを良くした方がいい。売り上げがあってもなくても変わらないのは、商売としてありえない。外から来た人が神崎町とはじめに認識する。2階のワークショップスペースの使いやすさ。役員さんたちの意識、町の税金。

●「一」事業

- ・地産地消。町の産業。農作物を使用した製品づくり。オリジナル性の高いもの。発酵食品をいろいろ案を出し新規製品をつくる。町に移住希望の人を培って、意見を出し合いながら製品づくりや仕事につなげる。町からの助成金が出たり、支援がある。ボランティアで作業をしてくれる人には、何かターンがある⇒B品の農作物をもらえる etc. B品や廃棄する物を寄附してもらい、商品化する。

●「一」事業

- ・道の駅について、町は農家が多いのでイベントで野菜のつめ放題や、米のつめ放題など月に何回か行い、あの道の駅のイベントはお得だと知らしめる。野菜は不揃いなものでいいと思う。他でもやっているところはあがるが、今高騰しているのでOKと思う。高くなっている。以上。①若者の定住。②納得できる説明。③人口が増える？④人手が足りない。

●「一」事業

- ・「町外でも楽しめる！堪能できる！地域の味」をコンセプトとし、特産品レストラン（例：発酵レストラン）を都心に展開。健康ブームや美容志向が高い都会にレストランや気軽に楽しめる場を設け、地域外からの収益も獲得。現状：地域内で楽しめる→未来：都会でも地域の味を楽しめる！

●「一」事業

- ・「道の駅強化」をスローガンとし、神崎インターが道の駅とつながるため、県外の人がたくさん来ることが予想される。神崎でつくった物をもっとたくさん取り入れる。有名チェーンなども入れる。予算 500 万。

●「一」事業

- ・「本当の豊かさを知ってほしい」をコンセプトとし、オーガニックな建物で神崎のおじいちゃんおばあちゃんの特技を売る。かわいい建物だから観光地にもなる。オーガニック野菜を使ったご飯屋さんなど、商業施設をつくる。

中学生提案

●「神崎の食材で料理会」事業

- ・「地元の食べ物のおいしさを知ってもらう」をコンセプトとし、神崎で採れた食材を使って料理をする。自分でつくることで達成感があり、よりうまく感じられる。地産地消にもつながる。教えてもらえるので、苦手な人でも安心してできる。

●「地産地消」事業

- ・つくったものをその地域で食べるということ。だから、地域に来てくれた人につくったものを。

●「発酵を使った食品をつくる」事業

- ・「発酵で有名な町にして人口を増やす」をスローガンとし、神崎は発酵が有名だから。発酵を使った食品の例：発酵スパゲッティ（250 円）、発酵チーズバーガー（200 円）など。

●「発酵食品を使った飲食店をつくる」事業

- ・「神崎町の発酵食品を使った飲食店をつくることで、観光に来た人でも近くの人でも楽しんでもらうため」をコンセプトとし、飲食店をつくる。予算 1,000 万～1,500 万円。

●「観光地開発」事業

- ・「外国人とか、遠くから来た人も近くの人でも楽しめるために」をコンセプトとし、自然のよさ、いいところを見せたりする。予算 1,000 万円。地元の教育委員会に伝えるがサポートする。

●「地域外からの収益」事業

- ・神崎町の魅力のある店を違う地域にも置いて、魅力をもっと知らせたい。神崎町の人達以外も、魅力を知って、どんどん知ってほしい。神崎町のキャラクターや、施設、学校、自然、食、発酵について知れる店をつくる。いろいろな人に協力してもらおう。神崎町の事を、もっとたくさんの人が語れるようにしたい。神崎の人口を増やしたい。予算 8,000 万。

●「食の開発」事業

- ・「神崎のみんなで作る おいしいものをつくろう」をスローガンとし、神崎で育てている食べ物を使ったりして、神崎にしか出せない味をつくる。神崎の、農業をしている人たちに協力してもらおう。神崎のものを使い、おいしく楽しく食べたい。神崎町全体で楽しくつくりあげたい。予算 100 万。

●「観光開発」事業

- ・「神崎の観光地をつくる」をコンセプトとし、「神崎町の人々のことを知ろう」をスローガンとし、みんなが休める場所。人々で話せる場所。いつでも入れる場所。神崎の人々の仲を深めるため。神崎の中心ら辺の場所。予算たくさん。

●「地産地消フェスティバル」事業

- ・「食べ物のおいしさを知ってもらう」をコンセプトとし、町でつくられた食べ物などだけの祭り。一番おいしかったもの投票をする。一番の人には何かをプレゼント。

●「神崎の食べ物を紹介する」事業

- ・神崎の外に出て紹介しに行く。キッチンカーや屋台などのお店を出す。

●「観光開発」事業

- ・「観光に来た人が思い出に残るようなところ」をコンセプトとし、「なんじゃもんを愛す町」をスローガンとし、なんじゃもんを使って映えスポットをつくる。写真撮る→インスタ→広まる。

●「食を豊かにする」事業

- ・食の開発（発酵をテーマにした）ヨーグルト、納豆など。神崎町のいろんな場所で売る→他の町も興味を持つ。

●「食の開発」事業

- ・地元食品を使って。

●「観光地をつくる」事業

- ・観光地をつくり、人をたくさん集め、お金を集める。

●「商店街の空いている（もったいないな）ところに、古民家カフェをつくろう！」事業

- ・神崎町と言えば、発酵食品、歴史など……。カフェ、古民家、兼ね備えている！！Instagramなどで呼びかけ、若者に来てもらう。経済を回そう！もちろん町民も来て、憩いの場みたいな役割も。

●「神崎町の発酵食品を他地域に売る！」事業

- ・「おいでませ神崎町」をスローガンとし、なぜ神崎町の発酵食品を町以外に売る？→良さを知ってほしい。あわよくば人を増やしたい。場所：イオン、道の駅 etc……。売るもの：バウムクーヘン、味噌、甘酒、醤油、酒など。予算 500 万。販売者がサポートする。

●「観光開発」事業

- ・「居心地の良い場所」をコンセプトとし、「神崎町じゃない人が来る環境」をスローガンとし、トイレや道、駐車場の整備。トイレきれいに。予算 500～1,000 万円。神崎町役場、地域の人（掃除当番を決めたり）がサポートする。

●「大型デパートの建設」事業

- ・「必要なときに必要なものが買える」をコンセプトとし、「いつでも便利で安くする」をスローガンとし、デパートの建設。予算 3 億。神崎町がサポートする。

●「アイドルで活性化」事業

- ・アイドルのコンサートを毎月 1 回行う。グッズショップをつくる。

●「湧き水でまちおこし」事業

- ・四季の丘下から出る湧き水をブランド化。1 組 150 円で売り出す！

●「神崎町オリジナルの商品の食べ比べ、飲み比べ」事業

- ・食欲の秋の時期に、ふれプラなどで神崎町のオリジナル商品（飲食系）の食べ比べ、飲み比べをして売り上げアップ！！試作品なども出して新商品を！！土日と月 or 金の 3 日間、その日だけいつもより安く買えたり……！（5%off）

●「観光開発」事業

- ・利根川にカヌーの船乗り場を設置する。3、4月頃に設置する。6～8月、10～11月、2～4月に入れるようにする。理由、利根川付近が寂しいから。観光客が来てくれるように。費用250万円。

●「田んぼアート」事業

- ・神崎町の自然を生かす。観光客を増やす。減少中の農家を増やす。働く場所をつくる。自然豊かな町。

●「一」事業

- ・目的：神崎町の魅力を伝える。広告やチラシを配って、神崎町のおいしいものや体験できることを宣伝する。予算200万円ぐらい。

●「一」事業

- ・町をいろんな人に知ってもらうため、町の観光地を整備する。ボランティアの人を集めて清掃をする。町を有名にして人口を増やす。予算500万円ぐらい。

●「一」事業

- ・「神崎町の特産物を使って人口を増やす」をコンセプトとし、味噌、醤油などの産物を使って食品開発。道の駅の人がサポートする。

●「一」事業

- ・発酵や味噌など、神崎の有名なもので食べ物を出す。有名なものを生かす。

●「一」事業

- ・神崎の発酵食品などをたくさん売る⇒他の地元の人がいつでも発酵食品を買うことができるから⇒そうしたら、神崎町のことをもっと好きになってくれるかもしれないから。

●「一」事業

- ・「神崎町の宣伝⇒人口増やす」をコンセプトとし、神崎町のお酒や発酵食品をもっと宣伝する！（メディアなど）できれば他のお店で神崎の食品を売ってもらう（千葉のお店など）。予算500万円～1,000万円？

●「一」事業

- ・「観光開発を進めて、にぎやかな町にする」をコンセプトとし、「神崎町の魅力を生かそう」をスローガンとし、温泉施設をつくる。予算5,000万。地元商工会青年部に依頼がサポートする。

●「一」事業

- ・神崎発酵マラソンのような、日本全国の人が楽しく簡単にできる活動をすれば、いろいろな人が来ると思う。

●「一」事業

- ・発酵食品のものを道の駅の隣に置く。お酒のお店の横に建てて売る。

●「一」事業

- ・発酵生かした食べ物つくる。神崎さんの味噌を使った味噌ラーメン、1つ800円、べきん亭の横。

●「一」事業

- ・神崎町にテーマパーク。アピールする→遊びに来る人が増える→魅力が増える。予算5,000万～1億。

● 「一」 事業

・神崎の道の駅の改装や増築を行い、地産地消コーナーなどを設置し、神崎の食品を売り、ネットなどでPR（年中）を行い、地産地消の活発化を行う。+ふるさと納税にも力をより入れる。

● 「一」 事業

・観光をもっと楽しくできるようにする。観光ができる場所で案内人を雇う。町について詳しい人を！バイト制で雇う（時給1,800円くらい）。

● 「一」 事業

・祭りのような行事を冬につくる。冬は家にこもりがちだから、地域の交流として神崎町の特産品を売り、他の地域からの人に来てもらえるようにする。

● 「一」 事業

・地域の特徴を生かした行事を増やす（料理など）。理由：行事を増やすことによって、他の地域の人もあるから。

● 「一」 事業

・ネットなどで特産品を売る→他の地域の人が簡単に特産品を買うことができる。

● 「一」 事業

・発酵マラソンの出店数を増やす。マラソンを見に来る人以外にも多くの人があるようになり、それがきっかけでマラソンに参加したいという人も増える。走った人には得点がつくとかだったら、もっと良い。予算300万。

● 「一」 事業

・神崎の発酵を使った料理をいろんな人に知ってもらうために、SNSなどで全国に発信する。そうしたら、食べたくなる人が来るから。そのお客さんに、SNSで発信したら100円引きにしよう。予算1,000万。

● 「一」 事業

・安くておいしいブランド米をつくる。米が不足しているから。

● 「一」 事業

・みんなが神崎町に来てもらえるように、いろいろなバリエーションの飲食店をつくる。住みやすくする。

● 「一」 事業

・楽しい地域にするために、この地域ならではのイベントを開催する。来てくれた方には割引券などを渡し、人をたくさん集めて、地域が盛り上がるようにする。

● 「一」 事業

・観光開発で、田の見えるスターボックスを4か月で建てる。そうすることで観光客が増え、とても神崎町が明るくなる。予算1,500万円（町が出す）。

● 「一」 事業

・ふれあいプラザにマックを建てる。ふれあいプラザに来る人が増えることで、町に金が貯まる。神崎町限定のメニューなどもつくることで、たくさん人が来ると思う。予算980万円。

● 「一」 事業

・これからのまちづくりのために、道の駅の商品をもっと増やす。なぜかという、少し売っている商品が少ないので、もっといろいろな商品をつくって。観光客を増やす。

● 「一」 事業

- ・宿泊施設。キャンプ場（テントやコテージ）→花火、BBQ、アスレチック、プール、虫・魚・鳥など、農業体験、藍染体験など、発酵の体験。神崎ならではの。神崎だったら、季節を問わず通年楽しめる！！1日ここで完結できる。きれいな筑波山、すてきな富士山が見える！！日帰りOK。地元食材。豊かな森林を生かして。予算2億。

● 「一」 事業

- ・温泉施設（スパ）。食事できる。エステ、あかすり。ゆっくり休憩。足湯。ドクターフィッシュ。〇〇ショー。マンガROOM。家族で、1人、友達と。高速で帰る途中に。地元の食材でご飯。おいしかったらお土産買う。たまに（月2）イベント。50億。

● 「一」 事業

- ・「サッカーチームをつくる」をコンセプトとし、「神崎からはばたけ」をスローガンとし、スタジアムをつくり、人を来させる。発酵の食べ物を売り、お金を設ける。予算10億。

● 「一」 事業

- ・「楽しい町だと思われるため」をコンセプトとし、「神崎を楽しい町にしよう」をスローガンとし、3か月に1回、発酵マラソンのような全国から集まる行事をつくる。予算1,000万。神崎町がサポートする。

● 「一」 事業

- ・「観光客を増やそう！」をコンセプトとし、内容：温泉をつくる。大自然の中の温泉っていいね。予算：1,000万くらい？

● 「一」 事業

- ・地域活動をして、新たな建物、イベントをつくって、もっと町を発展させる。

● 「一」 事業

- ・観光場所をもっとつくって、他の県と同じくらい増やして、外国の方、町の人などを誘惑しつつ、来てもらって見てもらう。

● 「一」 事業

- ・町で育てた旬の野菜を、給食や飲食店、町の外のスーパーなどに売る。そうすれば子どもにも人気が出て、飲食店やスーパーで買った人に、野菜がおいしいなどネットで拡散してもらえれば、それで観光で来てくれる人が増えてくれる。それで町の人気が出る。

● 「一」 事業

- ・神崎町の「発酵」を生かした食品開発をする（味噌アイスとか、醤油を利用したものなど）→みんな（ただの住人）が興味を持ってくれる。みんな、食べてみたいって思ってくれるようになるんじゃないか。

● 「一」 事業

- ・神崎町の良いところをポスターにして、他の地域に宣伝する。他の地域から神崎町に興味を持ってもらえて、観光客や収益が増える。その収益でイベントや町行事などをさらに大きいものにすれば、いろいろな地方から、興味を持って来てくれる人や、楽しみにしてくれる人が増える→神崎がさらに良くなり、みんな好きになれる。

● 「一」 事業

- ・ 神崎町の発酵をテーマにした食品をつくる。人気な食べ物に発酵を加える→甘酒を使ったプリンなど、若い人から高齢まで興味を持ってもらえる→神崎町が人気になる。人気になれば、たくさんの人が神崎を好きになってくれる。

● 「一」 事業

- ・ 大人も子どもも一緒に楽しめるテーマパークをつくる。お金を貯めたり、まずは手に入りやすい資源から集める。町に住む住民を増やす。

● 「一」 事業

- ・ 利根川が静かすぎて、それに船着き場もあるから、水上スキーなどの水で遊べるものをつくる。船などで遊ぶところは少ないからいいと思う。冬にはキャンプ場に、そうすれば草が生えない。費用 200 万円。

● 「一」 事業

- ・ 特産品を生かしたイベントを実施する。祭りや体験会、マルシェ、朝市など。費用 900 万。

● 「一」 事業

- ・ 娯楽を増やす！公園をつくる。ゲーセンをつくる。ショッピングモールを建設する。子ども向けおもちゃ屋をつくる。費用 1,500 万くらい。

● 「一」 事業

- ・ 神崎町で収穫されたものを少しでも多く食べて地産地消に貢献したり、神崎町以外の場所で販売して、収益を得る。また、食の開発をして試食会をしたり、どのような過程でやっているか、ビデオや資料を活用して宣伝する。費用 300 万。

● 「一」 事業

- ・ 服屋をつくる（自力で行ける場所）。中学生が着る服が買えるような店があるといい。

産業（農業、工業、商業等）、就労関連

町職員提案

●「成田空港体験・出前授業」事業

- ・空港滑走路拡大→従業員需要増。小・中学生向けの仕事体験、授業→空港就職。神崎から通勤してもらう（補助）。人口流出を抑える。

●「スマート農業補助事業」事業

- ・「農業の効率化・省力化、事業継承の補助」をコンセプトとし、GPS等を用いた自動田植え、ドローン農薬散布。機械類の補助金。生育状況データの蓄積→新規就農者が利用。データ分析、提供（天候・土壌）。予算34万。

●「農業の6次産業化」事業

- ・「つらくない」アピール。一時的に集中する作業を、年間を通じて平準化する→お金（付加）も稼げる。「安定」を求める人を呼び込みする。「ゆとり」も確保してるアピールする。「女性」がいきいきしてるイメージ大切。

●「一」事業

- ・「神崎で育った子ども達が就職する時に、神崎町で勤めるという選択肢を与えたい」をコンセプトとし、「神崎で仕事・生活を」をスローガンとし、IC付近を大規模改修し、企業を誘致。予算5,000万。民間企業へ委託。規模・PR。

●「一」事業

- ・人手不足の解消。

●「一」事業

- ・食品の工場、加工場が建つと良い。町内から外へ働きに出ってしまうので、町内に働く場所をつくる。農産物の加工できたら良い。工業団地を広げて場所をつくる。

一般住民提案

●「地元企業とつながる職場体験」事業

- ・神崎内の企業と中学校と、Zoomなどでつなぎ、職場体験やインタビューを授業に取り入れる→地域産業の理解を深める。

●「空き家の再生事業」事業

- ・町の建設業者に仕事を依頼する。町民の町離れを防ぎ、新しい町民を迎え入れる。全てを町の建設業者に頼むことで、仕事の充実を図る。

●「里山維持事業→竹の伐採」事業

- ・（効果）①落葉樹の山林の復活。②地形がよく見える→防災。③竹炭、竹の発酵肥料 etc。（期間）10～15年。

●「町外民副業プロジェクト」事業

- ・町外に住む人たちが気軽かつ楽しく町に来れる＆町の労働人口減少食い止めに寄与。週末や平日の夕方以降などに来てもらい、町の産業を手伝ってもらう。

● 「一」 事業

- ・農業を持続させていく（子どものころから農業体験）。空港が隣の市にあることを有効に。国の研究機関が集まっているつくばと空港の間のまち。

● 「一」 事業

- ・成田空港にC滑走路が3,500mで2029年に完成予定で、年間30万回から50万回に増便されます。千葉県の全ての市町村が国家戦略特区に指定されました。神崎町も企業の誘致や住居の提供など考えたらどうでしょうか。予算は未定。補助金をもらう。以上です。空き家。②それ金は誰が出すの。③誰も協力しない。④どんな町でもどうでもいい。

● 「一」 事業

- ・地産地消。

中学生提案

● 「無職減らそうの会」 事業

- ・仕事のない人に、週に1回時給1,150円の仕事を与える日が来る（バイト）。参加は自由、18歳以上のみ、誰でも最大24時間。暇にしてる人が減る！お金がない人が減る！仕事に就きたくなる。お金が回るようになる。会話や知が増える。交流ができる。予算500万円。

● 「地産地消をしよう」 事業

- ・「みんなで地産地消を協力しよう」をコンセプトとし、「みんなで地産地消をしよう」をスローガンとし、町のスーパーなどに行って、自分の地域でつくられた野菜などを買う。予算500万。町の人々がサポートする。

● 「レストランで活性化」 事業

- ・毎日開いて、月に1回新メニューを開発する。学生は割引プラス大盛り！ポイントカードをつくる。500万。

● 「地産地消をしよう」 事業

- ・食品ロスを減らすために、誰でも買いやすい値段にする。誰でもすぐに買いに行けるようにすれば、買う人が多くなると思うので、お店があまりない地域にお店を置く。

● 「一」 事業

- ・「町で育てた野菜や果物は町で消費する」をコンセプトとし、農家や街が管理する田んぼや畑をつくる。畑の仕事をしている人に協力を依頼する。

● 「一」 事業

- ・「家で何を食べるか迷った時に行ける。家の近くにあって、そこで働くとしたら通いやすいから。」をコンセプトとし、飲食品をつくる。予算1,000万円くらい。

● 「一」 事業

- ・会社の栄養面を確認しておく。自分が好きなお菓子会社を全国に建てる。

● 「一」 事業

- ・神崎町に飲食店をつくる。2～5店舗。今の神崎にはない。飲食店があると人がたくさん来る→人口が増える。予算1,000万～5,000万。

● 「一」 事業

橋の近くに商店街をつくる。

● 「一」 事業

・社会人にアップルウォッチを、4年間働いたらプレゼントする。1年目で仕事を辞める人を減らせるし、仕事の公立もアップルウォッチで上がる。教育委員会が渡す。お金は町から+税金から。

● 「一」 事業

・飲食店を増やす。町の人から募金する。飲食店を増やすことで人も増える。。



安全・安心関連

町職員提案

- 「個人宅防犯カメラ設置補助（2基くらい）事業」
 - ・不審者対策。補助対象宅からデータ提供をしてもらう。設置購入費の50%、2万上限。
- 「ドローンによる防災・防犯への活用」事業
 - ・「ドローンの活用」をコンセプトとし、孤立集落への物資輸送。登下校の見回り。防犯パトロール。予算100万（実証実験）。
- 「一」事業
 - ・各家庭に、1次避難所、2次避難所の場所を（マップ）通知する。予算10万円。
- 「一」事業
 - ・街灯を増やす。道路に出ている木をなるべく減らし、道を通りやすくする。竹やぶ等をなくす。

一般住民提案

- 「歩道にガードレールか街灯の設置」事業
 - ・「少ない子どもの安全を確保する」をコンセプトとし、小・中学校へ続く通学路を安全にするため、ガードレールの設置か、歩道を広く。神崎に帰ってくる高・大学生のために暗い道に街灯の設置。
- 「安心・安全なまちづくり」事業
 - ・防犯カメラ設置を推進し、犯罪の抑止を図る（補助金制度の活用を進める）。防災として備蓄品、特に女性用乳児用の品物を充実させる。仮設トイレ等、非常時のトイレ環境を整備する。「中学校通学バスの作成」事業「駅以南に住む学生が行き来しやすいように！災害時（ハザードマップから見られる駅以北の水害）に備え、すぐに移動できない高齢者や、中学に避難した人を駅以南に避難させられるように。」をコンセプトとし、ターゲット：通常時は、駅以南の学生、災害時は学校近くに住む車を持たない人、動けない人の避難に活用。
- 「地域の目をデジタルに」事業
 - ・町内の通学路、公園等にAIカメラを設置して防犯する。深夜の徘徊、不審者の滞留等を自動検知して通知する仕組みを構築して、安全なまちアピール。
- 「災害に備える」事業
 - ・「災害で電気、ガス、水道が止まった時に生活ができるように」をコンセプトとし、防災グッズ、備蓄食品の配布、蓄電気の購入補助、太陽光パネルの購入補助、ハザードマップの配布。
- 「消防訓練の実施」事業
 - ・「消防に頼り切らなくても動けるようにしよう！」をコンセプトとし、内容：年に1回ふれプラでの消防訓練、救命講習の実施。予算：消防のグッズ等、50万～100万？成田市消防の協力、消防団の協力がサポートする。
- 「揚げよう発酵食品のOSUSOWAKE（防災・減災）」事業
 - ・問題：災害多発、7/5、食品・備蓄品のロス、食べられない非常食。内容：「地域ぐるみのローリングストックの仕組み」、OSUSOWAKE（プロジェクト）と神崎町との連携。期待される効果：「いつも」おすそわけすると、「もしも」におすそわけ。販路拡大。関係人口（リピーター）の拡大。行政、市民、大学協働。

●「一」事業

- ・神崎独自の対策。備蓄米&米保管庫（1か月分×町民）。手漕ぎポンプの井戸設置（各施設に1つずつ）。防災訓練、赤十字レクチャー。バイオトイレ。

●「一」事業

- ・近所で空き家が増えているので、防犯カメラを付けたりプライベートの許されるところで家族のことや病気などの内容を共有する。

●「一」事業

- ・猛暑対策。

●「一」事業

- ・「防犯の強化」をスローガンとし、最近神崎や近くで泥棒や強盗が増えている。監視カメラや防犯グッズを提供する。特に高齢者世帯や独居の方には優先的に。予算：1,000万。

中学生提案

●「町全体で避難訓練！」事業

- ・「災害で死傷者を出さないために」をコンセプトとし、避難場所の共有。地区ごとでの協力体制を高める。

●「街灯を増やす！」事業

- ・「夜が暗すぎる！」をコンセプトとし、車を運転している時に人が見つらいため。習い事後の帰り道が怖い。

●「防災」事業

- ・町、地域の人で避難訓練を行う。地域の人達で行うことで、話す機会がつかれる。いつ：月に1回。避難訓練を行うことで、少しでも安全を守れると思ったから。

●「神崎ハザードマップの作成（最新）」事業

- ・防災に備える！最近、地震が多いから。万が一地震が起きて、火災などいろいろなことが起こったとして、ハザードマップでルート確認とかをしといた方がいいから。

●「防災…災害があっても不安にならない」事業

- ・年に3回防災訓練。避難のしかた、避難所の使い方教室。防災グッズ、長持ちする食べ物をそのたびに配布。ダンボール等などの収集。予算100万。

●「交通安全」事業

- ・「地域の人やいろんな人を事故させないために」をコンセプトとし、「大事な命を守ろう！」をスローガンとし、学校の近くや人通りなどが多いところで交通安全をする。予算5万くらい。警察官、地域の人がサポートする。

●「町民全員で参加する避難訓練」事業

- ・もしも災害が起きた時に素早く対応できるように、避難場に言ったり家族を探したりを実際にやってみる。減災の取り組みを自分から考えることで、防災バッグの確認や家族での話し合いも行おうという考えが生まれる。

●「地震や災害が起きた時用に防災グッズを備えとく」事業

- ・地震が起きてしまった時に、食料がなくなったら餓死してしまうから、日頃から防災グッズを備える。

●「みんなが、ケガの対処法や倒れた人の対処法を知れる交流会を開く」事業

- ・安全に暮らせるように対処法を知っておく。

●「防災倉庫を増やす」事業

- ・「避難した後の暮らしを支える」をコンセプトとし、防災倉庫を増やし、中身の説明や使い方、場所などを伝える会を開く。中の品を使ったゲームをする。予算 300 万円。

●「防災訓練」事業

- ・「何かあった時にパニックになる人を減らす」をコンセプトとし、半年に 1 回いろいろな災害を想定して、地区ごとに訓練する。役場の方に頼む。終わったら参加証を渡す。訓練は、避難場所の確認だけでもよい。1 回 40 万円以内。

●「防災訓練」事業

- ・災害が来た時に逃げられるように、最近近所同士の関わりが少ない。年に 3 回、避難場所の確認。地元教育委員会がサポートする。

●「避難経路のマップを配布（避難に必要なものなどのリスト）」事業

- ・今年の中でやってほしい。市役所の人たちがつくって郵便で渡す。なんでかという、高齢の人たちもいるから（持ってない人もいるから）渡して、避難経路を知ってほしい。

●「―」事業

- ・1 家族に防災グッズ 1 つと、缶詰などの食べ物 1 つを配る。目的はみんなの安全や笑顔を守るため。予算 300~400 万円ぐらい。地震など災害の危険性を伝える。危険な場所や危険なことを伝える。

●「―」事業

- ・「もし災害が起こった時、冷静に避難する」をコンセプトとし、年に 1 回、町で避難訓練をする。町民 1 人ひとりの意識を高める。

●「―」事業

- ・「不審者に遭っても冷静に対応する」をコンセプトとし、不審者対応訓練を増やす。←これをしたら？いざとなった時の被害者が減る。

●「―」事業

- ・「交通安全をして事故をゼロにする」をコンセプトとし、1 年に必ず 1 回、町民と警察署の方と一緒に交通安全教室を開く（交通ルールの確認）。費用⇒500 万円以内。

●「―」事業

- ・「どんな災害がきても大丈夫なように」をコンセプトとし、神崎町全体で、災害が来たときの備えや、大きな災害が来たらまずどうすればいいのか考える。

●「―」事業

- ・「交通を安全にできるようにする」をコンセプトとし、見通しの悪いところや、道路にあるミラーをもっと見えやすくして安全に、車が安心して運転できるようにする。予算：200 万円~700 万円くらい。

●「―」事業

- ・神崎の危ないところに人が近づかないようにするために、呼びかけをする。

●「―」事業

- ・防災でカンパンを町からあげる。子育て、哺乳瓶を町からあげる。

●「―」事業

- ・防災訓練を 1 か月に 1 回行う。最近地震が多くなっているから、町全員が。

●「―」事業

- ・年 3 回、防犯教室を開く→犯罪が減る→住む人が増える。予算 2~300 万。

● 「一」 事業

- ・防犯対策を町全体で行って、犯罪をゼロにする→各地区ごとに防犯カメラの設置。防犯対策グッズ等の配布。

● 「一」 事業

- ・年に一度防犯グッズを配布する。

● 「一」 事業

- ・①地震が来た時にすぐ避難するため。②1か月に1回やる。③学校や町などで防災訓練を町の人たちとしたりする。

● 「一」 事業

- ・停電になった時、電気を配る。蓄電しておく。

● 「一」 事業

- ・地震が来た時などの対策を強化する。避難所はあるが、避難所などのプライバシーの防護や必要以上の非常食を準備するなどする。地震で大変なのは、避難所のプライバシーの空間をつくるのが大変なので、紙の建築などを準備しておくことで、安心して避難ができる。

● 「一」 事業

- ・安全に暮らすため→防災の備え→どういう？食。食のみを用意する（500万）→発電機を用意（2つ）（110万。多く積む）。布団（100万）、約5,000人。5,000人入りきる施設をつくる（40億？）

● 「一」 事業

- ・「いざという時あるように」をコンセプトとし、「いざというとき そなえよう」をスローガンとし、半年に1回、非常食、水を町民に配布。予算1,000万。神崎町がサポートする。

● 「一」 事業

- ・「もし地震などが来た時に、すぐ避難できるように！」をコンセプトとし、地域ごとに年に1回防災訓練をする（参加したら何かもらえる）。地元の教育委員会がサポートする。

● 「一」 事業

- ・「町をまもろう！」をコンセプトとし、内容：堤防をつくる（利根川）。防災倉庫を増やす。予算：700万～？教育委員会がサポートする。

● 「一」 事業

- ・防災対策や防犯対策がとても大事！空き巣や盗難に備えるために、防犯カメラを各家庭に設置する。災害が起きて、高齢者や避難が困難な人がいる時は支援を強化したりする。子育て世帯の人たちに安心して生活してもらえるように、子育て支援をする。障がいを持っている人もいると思うので、障がい福祉に取り組んでいけば良いと思った。費用500万。

● 「一」 事業

- ・神崎町民全員が（強制ではない）、地震や津波を想定した避難訓練を行い、いざとなった時に備えられるようにする。

● 「一」 事業

- ・災害が起こった時に、食料や水、ラジオ、懐中電灯、毛布。

結婚・子育て支援・高齢化対策関連

町職員提案

●「高齢者支援」事業

・地域の1人暮らしが多くなりましたので、町として対策をお願いしたい。

●「児童館+相談できるところ」事業

・「町内に拠点となる場がない」をコンセプトとし、常時開設している子どもの居場所。予算、建物だと億単位になるかも。既存施設がサポートする。

●「一」事業

・子育て・教育については手厚くなりつつあるが、高齢者支援については、まだまだやるべきことがあるように思う。医療や買い物支援、福祉タクシー等、今まで町の発展に尽くしてこられた高齢者が、生きがいをもって余生を楽しめるような生涯学習も充実させたい。

●「一」事業

・子育て支援。子育ての、親子で話し合える場。遊び場の提供をもっと充実させる。

一般住民提案

●「高齢者の運動不足改善」事業

・内容：高齢者が気軽に運動できる場所をつくる⇒いざという時に自力で避難できるようにする。人が集まることでコミュニティもつくれる→ボケ防止にもなる。

●「地域内での協力し合う子育て」事業

・子どもが生まれる前から、自身の家族以外の町の人や、自宅以外・保育所以外の子どもの居場所を持ち合う。子どもの成長を地域の人々で見届けられる（イメージ、江戸自体の長屋のような……）。親がどうしても子どもをみれない、預けられない時の安心の場所と心の拠り所を持てる。

●「こうじの子ども食堂」事業

・「[発酵]していく過程のように、人々が集うことで町をよりよく、そして互いの個性を認め合える居場所を！」をコンセプトとし、こうじを使って子ども食堂を行う！町の魅力を食卓に生かし、子どもたちに「こうじによって育てられた」と思ってもらえるようにする。

●「認知症予防のための多世代交流型eスポーツ大会「椿杯」の実施（福祉）」事業

・課題：65歳以上6人に1人は認知症。ゲームは頭悪く？内容：①eスポーツ道場！こども師範とシニア●●生。Ex 神崎小⇔●●カフェ。②おじいちゃんおばあちゃんと孫によるeスポーツ大会。③大学等の専門・研究機関と連携した検証。効果：身体・認知症◎。多世代交流◎。孤独防止！

●「一」事業

・「子育て奨励金プログラム。子ども1人につき500万円配布。」をコンセプトとし、0～10歳までの10年間、50万円ずつ配布。予算：地域の予算。商工会からの寄附。地域債を発行してまかなう。

●「一」事業

・若い人の生活も大切なのは町のために大事です。私はひとり老人のことも心配しています。同居の人がいれば安心なのですが、ひとりの場合何が起きても分かりません。ひとり老人に対するネットワークや地域住民の協力などが必要だと思います。町に強く要望します。以上。①町のベテランは反対する。②新しいことは無理。③町の人たちがスムーズに……。④失敗しているから。

●「一」事業

- ・高齢者多い。困っている人に手を差し伸べる住民を増やす（転びそうな人等）。

●「一」事業

- ・「障害者福祉：技術・産業の継承で、神崎の文化をつなごう！」をコンセプトとし、障害のある方が働き、自立して生活するには、仕事の間が必要。後継者不足になりつつある産業を支える人として活躍できるまちづくりを！！

中学生提案

●「町中の段差を減らす！」事業

- ・「ベビーカーを使用している人や車いすを使用している人が、困難なく暮らせる」をコンセプトとし、建物に入る時の段差の上り下りが大変だから、スロープを多く設置し、自由に好きなところに行けるようにする。

●「子育てについて地域での勉強会」事業

- ・子育てについて悩んでいる人や、これから子どもがほしいと思っている人に、より子育てについて知ってもらい、前向きになってほしいから。いつ：月に一度、専門家を呼ぶ。どのくらい：申し込んだ人全員。

●「教育の負担を減らす！」事業

- ・「少子化で子どもの人数が少なくなっているから」をコンセプトとし、内容：子どもの人数に応じて5万円配布する。予算：1,000万円。

●「高齢者支援」事業

- ・「一生安心して住めるまち」をコンセプトとし、毎日いろんな人と交流できる場をつくる。1人になったさみしいお年寄りでも、話し相手ができる。お茶やお菓子、ボードゲームを提供。予算3万。

●「保育園の無償化」事業

- ・「気軽に入園できる！」をコンセプトとし、無料で入れる。

●「子育て：本の読み聞かせ」事業

- ・「忙しいお母さんを助ける」をコンセプトとし、「子どもも楽しい、お母さんもうれしい、みんなハッピー！！」をスローガンとし、休日や祝日に子どもを預かって、読み聞かせなどを行う。要らなくなった本をもらう→お金と交換。

●「高齢者支援」事業

- ・「高齢者の人もみんな仲良くしよう」をコンセプトとし、気軽に来て、お話ししたり休めたりできるところ。

●「子ども食堂」事業

- ・「子ども食堂を開いて、子どもたちに食べ物を出して食べてもらう」をコンセプトとし、「健康（元気）になるために食べ物を食べる」をスローガンとし、貧しい子どもたちに食堂に来てもらって、食べ物をつくる。食べてもらう。予算50～100万。農業している人、国の偉い人がサポートする。

●「老人ホームの入会者支援」事業

- ・老人ホームに入った5か月は無料になる。予算750万円。

●「子育てに必要な物を配布」事業

・子育てをしやすい町にするために支援する。教育委員会が配布。予算 500 万。

●「子どもと高齢社会の対策」事業

・「子どもに、高齢者の居心地の良い場所」をコンセプトとし、「住みやすい町 高齢者 子ども 全体が幸せに」をスローガンとし、月 1 回 5 万円を寄付。70 以上を対象に。子どものいる世代、子どもの数×1 万円。予算 1,200 万。神崎町がサポートする。

●「給付事業～子育てを助ける～」事業

・1 世帯の子どもの数×50 万円給付（月）。子育ての時のお金に困らなくなる。震災が起きても備えることができる。

●「高齢者が住みやすい町の仕組み」事業

・神崎町では、近くにセイミヤ等のお店がなくて、通いづらい高齢者の方がいると思うから、その人たちのためのバス等を整備する。週 5 日運行。予算、小型バス代 1 台分とガソリン代の分。料金、月に 2,000～4,000 円。場所、セブン、ナリタヤ、ヤックス、薬局、ふれプラ。

●「一」事業

・「子育てがしやすい町にしよう」をコンセプトとし、「子どもの笑顔を守るまちづくり」をスローガンとし、ランドセルを子どもたちに配布。予算 200 万円。

●「一」事業

・「みんなハッピー たぶん。おばあちゃん、おじいちゃんをめでの会」をスローガンとし、小・中学生と高齢者が交流する日をつくる。一緒にご飯を食べたり、野菜も育てる。ラジオ体操とか運動したりする。小・中学校、高齢者がサポートする。

●「一」事業

・子育て：子どもが生まれたら町からチャイルドシートをあげる。障がい福祉に車いすを支援する。

●「一」事業

・神崎の子育ての支援を充実させるため、子ども（中学生以下）がいる家庭に神崎で使える券を支給（年に一度増やす）したり、保育所、小学校の改装を行う。また、子育て期間の家庭に商品などを支給してあげる。

●「一」事業

・親が子どもを育てやすい環境。医療費などを無料にして、親の負担を減らす。

●「一」事業

・子どもが 3 人以上いる家庭には地元の食材などを寄附する。そうしたら、地元の食材のおいしさなどに気付けるから。予算 1,000 万。

●「一」事業

・子育て。子どもが生まれた家には、1 人の子に対し 5 万配る。小学生や中学生の給食費を無料にする。月に何回か、子どもが楽しめるイベントをしたりする。

●「一」事業

・高校 3 年生までの子どもがいる家に、子ども×15,000 円の配布をする。子どもを育てやすくなったことで、子どもを生もうとする人が出てくる→人口増加。1 年おきにやる。子どもを育てやすい町だと思い、引っ越してくる人がいる→人口増加。予算、子ども×15,000 円。

● 「一」 事業

- ・ハンディファンを神崎の小・中学生に配布。通学中、下校中に暑さが厳しいから、熱中症対策に教育委員会が配布。予算 500 万円。

● 「一」 事業

- ・子育て支援をする。例えば、子どもがいる家庭全てに食品券を配ることや、学校の授業料や給食費を保障することで、子育てに余裕が生まれる。町の住民から集めたお金を使う。



地域コミュニティづくり・ボランティア関連

町職員提案

●「自治会（町内会）の法人化」事業

・「町内会の存続」をコンセプトとし、法人化により町内の仕事を行う。ごみ出し支援。防災、見回り。地域活性化。予算、1地区200万。町内役員経験者（60歳～70歳）がサポートする。

●「ボランティア活動の推進」事業

・単身高齢、高齢者のみの世帯。ごみ出しボランティア。近隣との交流。（例）費用1か月500×12月。道の駅の商品券、謝礼。

●「一」事業

・「活気あふれる地域づくりによる新しい地域交流の場の創生」をコンセプトとし、「地域を活性化させるために」をスローガンとし、高齢化により、活気や地元の人と人とのつながりが薄くなっている。地域のことは地域で考えることをテーマに、地区から町に事業提案し、各地区からプレゼンをしてもらう。年200万。事業内容によって異なる。

●「一」事業

・コミュニティの統合。各地区で人口減少→コミュニティの維持が困難→統合、再編。区：消防、実行組合。

一般住民提案

●「町の記憶を未来へ」事業

・神崎町の暮らしやこれまでの出来事をシニア世代にインタビューをして、動画等の作成をして後世に残す。神崎町の良さをアピール。世代を超えてつながるきっかけにする。

●「地域活動」事業

・やりたいことが叶う場をつくり、小さなマルシェや、食品の加工、販売をやりたい人を募って、新しい産業のスタートアップを応援する場（を、町がつくり、民間で運営）。やってみたいけど営業許可がないとか、販売する場所がない……を解決していくキッカケの地域活動が生まれると良いな。

●「神崎町貢献ポイント創設」事業

・「町へボランティア参加などでの貢献を促す。」をコンセプトとし、内容：町の事業等、住民参加の機会を多く設け、参加者、貢献者へポイントを付与。商品券や介護サービス等、町で使用できるように。ひとり者でも自分のためになるよ。予算：1,000万円。役場、自治会、消防団、青少年……各団体がサポートする。

●「有償ボランティアの導入」事業

・毎月の初めにアルミ缶の回収事業を行っているが、地域によって分別の仕方にばらつきがあり、ボランティアの数も足りていない。アルミ缶の回収以外のボランティアでも無償ではなく、1回500円など有償にすることで、参加してくれる方が増えるのではないかな。

●「一」事業

・子ども食堂。

●「一」事業

- ・(ボランティア) 子どもたちの見守り。高齢者の協力を得て行う。地域のつながりが強くなるのではないか。防災にも強くなると思う。

●「一」事業

- ・ワークショップの活性化/YouTube 配信。町民登録。発酵ワーク、自給、手づくりや自分でできる人に共有できることをワークショップにして、町民の参加を促す(勉強会)。町で助成金を出す。醤油づくりワーク、味噌づくりワーク、麴づくりワーク、竹ワーク。町に引っ越しすると、住民同士のつながりや成長する要因、楽しく暮らせることを外にもアピール。仲間づくり。わくわく西の城をうまく使う。活性化。

●「一」事業

- ・自治会の会員同士で情報交換をする。テーマはより良い生活を送るために！！ボランティア活動のポイント制にして、そのポイントをボランティアで返してもらう！or 商品かな。自分に、他人にあげてもよし。

●「一」事業

- ・ボランティア(たすけっと、アルミ分別)。町内会(交流活動)。

●「一」事業

- ・ボランティアに対する意識づけ。

●「一」事業

- ・「いらっしゃい！学生ボランティア 農作業の手伝いで知識・技術・単位もゲット！！」をコンセプトとし、県内の大学等と協力し、学生ボランティアの活動を単位として認めてもらえるようにする。期間は半年(前・後)。学生間の口コミが広がれば、若い人が神崎に来る機会になる。

中学生提案

●「まちの掃除」事業

- ・「きれいで過ごしやすいまちをつくる」をコンセプトとし、町の人、誰でも参加できる。町内を回ってごみを拾い集める。いろいろな町民が協力することで、それぞれの知っているごみの多いところなどを回って、よりきれいにできる。

●「ボランティア」事業

- ・「きれいな神崎町を目指す」をコンセプトとし、「神崎町をきれいにするために」をスローガンとし、年に1回、学生や地域の人で集まりごみ拾いなどをする。

●「ボランティア大会」事業

- ・「ボランティアとゲームを掛け合わせて、楽しくボランティアができるために」をコンセプトとし、2か月に1回、地域の人を集めて、誰が一番ボランティアをできるか競う。予算100万円。地元の教育委員会に連絡がサポートする。

●「町民みんなでごみ拾い」事業

- ・「町をきれいに！」をコンセプトとし、半年に1回、みんなでごみを拾う。強制参加×。町からトングや袋が配られる。集めたごみを各指定の場所に！

●「草抜きをする」事業

・「きれいなまち」をコンセプトとし、地域ごとに草抜きをする。参加した人には、飲み物を配る。

●「ボランティア」事業

・「ボランティアをしてお金を集めて、貧しいところ（国）に寄付をする。助ける」をコンセプトとし、「貧しい人（国）に寄付しよう！」をスローガンとし、ペットボトルやキャップ、ごみ拾いなどをして寄付金を集める。予算6～7万？（10万）。近所の人、役場、学校がサポートする。

●「ごみ拾いボランティアを開催する」事業

・家族とでも友達とも参加して、みんなで協力する楽しさや大切さを考えることができる。ごみ拾いを日常的にやる意識もついてくるので、自然と町がきれいになることも期待できる。

●「神崎大そうじ作戦」事業

・神崎は祭りやマラソンなど様々な行事があるから、その後にごみがたくさん落ちてくるかも！！→みんなで行事後にお掃除しよう！参加してくれたらあめちゃんあげる。

●「草刈り運動」事業

・「汚らしい道を減らし、動くことがつらい人の庭を守る。」をコンセプトとし、ボランティアで土手や高齢者の家などの草刈りをする。初夏や夏の終わりに行く。参加者には商品券をプレゼントする。

・予算1回10万円。

●「町のボランティア会」事業

・「ごみを拾おう！」をコンセプトとし、「町のごみをなくそう」をスローガンとし、月に1回、町のごみをみんなで拾う。予算50万。地域の人がサポートする。

●「ごみ拾い大会～♪」事業

・1年に1回、神崎市内でみんなで。一番たくさんごみを拾った人は何かもらえる。ごはんを食べられるとか。ディズニー！！？町、きれいになるし、おもしろそうって思って人来るかもしれない。

●「ごみ拾い活動」事業

・ごみをなくせるようにする。ごみを集めたら飲み物がもらえる。年2回、地域に落ちているごみを拾う。地元の教育委員会がサポートする。

●「ボランティア」事業

・神崎町をきれいにするために、ごみ拾いをする。6月、9月、12月、3月にする。理由、ポイ捨てなどで町の環境が汚くなるのを防ぐため。酒蔵祭の前にやってもいいと思う。

●「駅などの人が集まるところでボランティアをしよう」事業

・理由は、駅に行く時ポイ捨てがあつたりしたので、ボランティアで片付ける。できれば、ごみ箱の設置もしたいです。駅の公園では草が長く生えていて、小さい子どもが蚊に刺されたりするから、切りたいです。

●「—」事業

・地域の人と一緒に、小・中学生がごみ拾いをしたりする。ボランティアで町の清掃活動をする。目的：きれいなまちづくり。地域の人と小・中学生が交流して、町の魅力を知ってもらう。

●「—」事業

・「町をきれいにして、町民が暮らしやすくなるために」をコンセプトとし、人を集めてボランティア活動をする（ごみ拾い、草抜きなど）。

● 「一」 事業

- ・月に1回ボランティア活動をする。ボランティアを募集して神崎をきれいにする。ボランティアをしてくれた人に何かプレゼントする（米、お金、味噌）。予算10万円。

● 「一」 事業

- ・I would gather volunteer people and make a group to clean the town, so we can live in a clean environment rather than living in a polluted area. (ボランティアを集めてグループをつくり、町をきれいにして、汚染された地域に住むのではなく、良い環境で暮らせるようにしたい)

● 「一」 事業

- ・年に1回ごみ拾い大会を開き、上位3名に神崎町で使える商品券をプレゼントする。

● 「一」 事業

- ・みんなでボランティア活動を行い、町をきれいにする頻度を増やす。ボランティア活動を増やすことで、地域での交流も増やす。対象、小・中学生。

● 「一」 事業

- ・町をきれいにするために、ごみ拾い運動をしたらいいと思います。場所は駅周辺です。なぜかという、最近いろいろな場所でごみを見かけます。駅などの場所にごみがあると、なかなか観光客も増えないからです。それに、「暮らしたい！」という人が少しでも増えると思うからです。

● 「一」 事業

- ・神崎で任意のボランティア団をつくる→神崎内や近隣の市町村でボランティアを行い、ボランティアを行うとスタンプが貯まる（もしくはポイント）。一定の量を貯めると、他の地域や神崎の特産品を交換でもらえる→多くの人に参加してくれるのではないか。

● 「一」 事業

- ・「ボランティア」をコンセプトとし、「町からごみをなくす」をスローガンとし、1ヶ月に1回ごみ0運動。

● 「一」 事業

- ・ボランティア活動を行い、町をきれいにし、町のきれいさを保つ。そして交流活動も行き、町の人たちと仲を深め、町の雰囲気あげる。ボランティアの予算は50万円。交流活動の予算は30万円。合計80万円。おもな活動は、住民たちと町をきれいにすること！！

● 「一」 事業

- ・町をきれいにする。週に1回、みんなでごみを拾う。町がきれいになる。

● 「一」 事業

- ・神崎の魅力である自然を神崎の町民が整備したり、手入れしたりすることで、魅力に気付いてもらう。

● 「一」 事業

- ・ボランティア清掃を増やす。1週間に1回する。たくさん動く。交流し仲良くなる。

地域のイベント・お祭り関連

町職員提案

—

一般住民提案

●「月イチ映画上映会」事業

・内容：地域活性教育への取り組みなどをテーマにした映画。上映会後のおやつ交流会。メリット：子ども、大人で参加できるイベントにすることで、地域の人たちが集まる場をつくる。新しい情報に触れる機会になる。

●「町内外を巻き込んだ「フォトコンテスト」の開催」事業

・目的：町外の人だけでなく、実は町内の人も自分の町の魅力に気が付けていないかもしれない現状を変える。一次審査：写真の専門家に審査してもらう。二次審査：道の駅で1次審査を通過した写真に投票してもらう。

●「おさんぽツアー」事業

・「誰でも参加可能！地域的人是健康に！地域外的人是町の魅力を知れる！」をコンセプトとし、神崎町を巡り、自然や道の駅を楽しみます。高齢化が37%以上であるため、健康づくりが大切であり、町の人々がコミュニティをとして精神的にも健康になる、町の人も参加することで（その場合は外の人が多め）魅力が分かり、癒される。

●「耕作放棄地活用事業」事業

・イベント化して楽しんで流れを生もう！草刈り、代掻き、田植え、草取り、稲刈り、精米までイベント化して手作業でやる。牛さんで代掻きとか。命の授業。草、刈ったもので草木染イベント同時開催。町内外で人の流れをつくる。つくった米をシェアして食べる。竹藪を整備して、竹パウダーと竹炭にしたり、竹のジャングルジムをつくったり、竹公園にする。竹の平均台とか……。

●「空き家活性事業」事業

・「空き家が暮らしの基盤になる！」をコンセプトとし、空き家をDIYして使えるようにするイベントを開催。町や都内から人を呼び込み空き家を直す。壊すものは壊しても良い。（ドア、窓、トイレ、洗面など）使えるものは次のDIYのときに使用。DIYされた家は、地域的人のフリースペースにする。高齢者、子育て世代、様々な人の交流が自然と生まれるようにする。2040年？で50%が高齢化、空き家も増加。ワークショップ（味噌づくり、藍染、麴づくりなど）。外国人の人と母国のご飯を持ち寄って食べる交流。基本自然発生するような仕組みづくりをする。500万。大工、コーディネーター。

●「一」事業

・「神崎町にエンターテインメントを」をコンセプトとし、ハロウィンやイースターなどの季節のイベントを天の川公園や遊歩道を使ってやる。子どもも大人も楽しめること。ダンス発表会等。カブト虫大会。

●「スポーツ大会を開催する」事業

・「どんな方でもいろいろな人と関わる機会をつくる」をコンセプトとし、頻繁に外出ができない人（高齢者、障がい者、子ども、病気の人など）でも、町の人とスポーツをして交流を増やす。夏休み中など、たるみやすい時期にも！！

●「町内花火大会計画」事業

・花火大会をして人を集め、そこで町のことを宣伝して、興味を持つ人を増やそうという計画。予算、花火 200 万円。宣伝 220 万円。

●「本宿の祭りをもっと広く行おう！」事業

・「神崎町民よ 真夏の昼より熱くなれ！」をスローガンとし、本宿で行っている祭りを広い範囲で行い、町民が盛り上がるイベントを増やす。町民運動会、悲しいが、ない。今、イベントが少ない。商店街→ナリタヤ方面まで、神輿を担ぐ人を本宿の人のみにしない。

●「プレゼント抽選会」事業

・「ビンゴ等、ゲームを通じて人の輪を広げるため」をコンセプトとし、「ゲームで広がる人の輪」をスローガンとし、年に 2～3 回抽選会を行う。予算 200～300 万。地元の商工会に依頼がサポートする。

●「町民運動会の開催」事業

・「燃えろ魂 熱き魂で頑張れ」をコンセプトとし、内容：町民運動会を再び行うことで、町民がたくさん集まり、結束力を高める目的。いつ：2025 年 10 月 11 日。人：町（地区）ごとに集まり、戦う。

●「町内会の方々主催のボードゲーム大会！！」事業

・オセロやトランプ、UNO などのボードゲーム大会を開催する。老人の人の認知症予防。老人も若い人もルールを知っている人が多い。老若男女関係なく楽しめる。ふれプラの老人ホームの方々も楽しめる。1 位～3 位の人にはお菓子など。10 万円～20 万円でボードゲームを！保育所、小・中学校、学童などにも配布。昔のゲームに親しみやすくなる！

●「一」事業

・「神崎町の活動について知ろう」をコンセプトとし、「発酵食品のおもしろさを楽しむ（味噌づくり、酒、醤油）」をスローガンとし、発酵食品づくり体験。予算 100 万円。他の地域の人も体験できる機会をつくる。地元商工会青年部に依頼がサポートする。

●「一」事業

・「ながしそうめん」をコンセプトとし、「苦勞した割には…」をスローガンとし、みんなで巨大な流しそうめんのレーンをつくる！！で、食べる！！（家にある使えそうなやつ）予算 400 円×人数分。地域の人がサポートする。

●「一」事業

・「ライブをして神崎に来る人を増やす」をコンセプトとし、「大人から子どもまで神崎を楽しむ」をスローガンとし、なんじゃもんフェスティバルの時のようなステージをつくって、人を呼んでライブをする（アンパンマンショーなど。小さい子も来てくれる）。

●「一」事業

・祭り、イベント開催。花火大会、お楽しみ会、就職先を紹介する。予算 200 万円。

● 「一」 事業

- ・夏休みに町の祭りの期間を少し延ばす。みんなで協力してたくさん動いて話して、交流を深めながら、屋台や花火などをやる。

● 「一」 事業

- ・週に4回ふれあいプラザでBBQを町民でやる。おいしいお肉を焼く。費用1回100万。

● 「一」 事業

- ・全体的に行事を増やす。発酵マラソンの回数→もしかしたら、近くに住んでくれる。

● 「一」 事業

- ・秋や冬の神崎町の行事を増やす。神崎町は秋や冬の行事が少ないので、町内行事を増やせばいいなと思いました。例としては、佐原のような秋祭りや、冬にもマラソンを行えばいいなと思いました。

● 「一」 事業

- ・藍染する。誰でも参加できる。地域の人とふれプラとかで月1くらいで。かわいいやつをつくる。1年で100万。

● 「一」 事業

- ・新たなイベントをつくって交流を深める。町民の意見を取り入れる→全員が納得するイベントを楽しむ。

交流活動

町職員提案

—

一般住民提案

● 「町民同士の交流会」で、日常的に人と人とのつながりを育む会」事業

- ・老若男女問わず、交流し合い助け合いができる空気をつくる。話し会ではなく、体験型のワークショップを通じてコミュニケーションを図る→自宅、自分の家族や職場以外の居場所づくり。

「世代を超えた学習交流（公民館の利用）」事業

- ・現状、町中から離れているため塾、予備校が遠い→町には高い学力の人々がいる→子どもたちの安全、老人たちのボケ防止、隣の顔が見える社会。

● 「一」 事業

- ・地域の人がつながる場をつくる。使われなくなったコミュニティセンターや空き家を活用し、イベント（楽しめる趣味、上映会なども。サークルでもフリマでも）を行い、交流を深める→災害時にも人のつながりが役立つ。コミュニティセンターや空き家を活用できる。

中学生提案

● 「町民交流会」事業

- ・「町に住んでいる人と仲を深める」をコンセプトとし、大人と学生が集まって、自分の趣味などについて話す。普段あまり会わない人のことを知ることができるので、考え方が広がる。

●「交流活動」事業

- ・交流活動を通して、町に興味を持ってほしいから。町の良いところを伝えることで、少しでも住民が増えると思ったから。いつ：月に2回。学生、役場の方がサポートする。

●「町内でレクを行う」事業

- ・「神崎町のみんなとの仲を良くする！」をスローガンとし、なぜ：神崎の人たちと仲を深め、町をより良い、仲がいい町にする！どこで：ふれプラ。レクの内容：ふれプラでかくれんぼをする。

●「交流活動、勉強会」事業

- ・町で、大人や子ども、誰でも来れるところをつくる。月に1回、交流活動をする。

●「朝のラジオ体操（毎週日曜日の朝）」事業

- ・健康第一。地域の人たちとのつながりを深く。協力できるように。

●「—」事業

- ・「コミュニケーションをとって、町の雰囲気良くする」をコンセプトとし、年に1回（または月に1回）、高齢者、小学生などと集まって交流会をする。

●「—」事業

- ・「同じ町の人と触れ合って仲を深める」をコンセプトとし、神崎の人口は少ないけど、その分仲を深めることで、絆が生まれる（交流活動）。費用200万円。町民、教育委員会の方々がサポートする。

●「—」事業

- ・「地域の交流活動」をコンセプトとし、年齢関係なく参加できる。1か月に一度、神崎についてのクイズ大会をする→もっと神崎のことを知ってもらえる！多く正解した人に景品をあげる。予算：50～100万円くらい。

●「—」事業

- ・「町の特有の楽しみをつくる。協力できるものがあれば、町内での仲が深まる」をコンセプトとし、1か月に1回、町のイベントを開いて人を呼ぶ。予算700万～1,000万円。

●「—」事業

- ・近所のみんなで焼肉（BBQ）。3か月に1回くらい交流。わく西で。

●「—」事業

- ・1か月に6回、町民全員でお泊り会をする。工夫、三ツ星レストランのシェフを呼ぶ。希望すればプールもできる。場所、河川敷か町長様の家。費用2,000円。

●「—」事業

- ・年に4～5回交流活動をする→他の市→コミュニケーションが身に付く。思いやりが学べる。笑顔になれる。友達が増える。大人達も、想像できなかったことが思い浮かぶ。先生同士で楽しく話せる。学校に行くのがもっと楽しくなるか……も？一緒に勉強をする→いろいろな「意見」が聞ける→考え方のパターンが増える。1億←多く。

●「—」事業

- ・交流活動→秋に町民の人と運動会を開く→町民の人と仲が深まる。仲が深まって楽しい種目をする→チームスポーツ。仲が深まれば、町はいいところだと感じる→町が好きと思える人が増える。

● 「一」 事業

- ・町の人たちと交流会をする。町の人たちとカードゲームなどの遊びなら誰でもできるし、交流会をすることで町に団結力が生まれるから。15万円くらいあれば、景品やカードゲームを買うことができる。年に3回ほど。

● 「一」 事業

- ・交流活動を行い交流を増やし、仲を深め、災害などが起こった時に協力して避難できるようにする。実施することは、しゃべることが多くなること。運動をする。理由、運動不足で動けなくならないため。

● 「一」 事業

- ・町民同士の交流を深める！なぜなら、町民運動会などで協力したりするから。交流する場を増やす。費用700万。季節によっていろいろな企画を取り入れれば、楽しい交流会になる。

その他

町職員提案

● 「外国人住民への勉強会・ルールの周知」 事業

- ・外国人住民に日本のルールを知ってもらう。外国からの転入者、年々増加→ごみ出し、税金等のルールを理解していない。教える、守ってもらう機会づくり。翻訳アプリ導入。お互いに嫌な気持ちにならないように。

● 「一」 事業

- ・住人を対象にした勉強会。

一般住民提案

● 「五感アンケートの実施」 事業

- ・目的：視るための資源は神崎町にさほど多くない→耳に残る音、さわやかな風、懐かしさを感じる匂いなど、不可視の魅力をまとめる。用途：地域住民が自分の町に対して自信を持てる。町内外の視点からマップ作成。

● 「発酵オーガニック事業」 事業

- ・「人も社会も地域も発酵させる」をコンセプトとし、100%農地がオーガニックになったら素敵じゃないか？まちづくりがそれだけでできてると思う。オーガニックに転換する農家の費用補償。作物でお酒や醤油、味噌づくり（会社が）買い取る。酒蔵、醤油蔵。生ごみ、竹藪、ぬかを発酵させて、たい肥にして有機に使う。農家へ。たい肥センター。

● 「一」 事業

- ・転入者を増やす。町外のいろいろなイベントに参加して、神崎町の良さをPRして転入者を増やす。田舎に住みたい人など。

● 「一」 事業

- ・知ることによって地元を好きになる。町にある自然、動植物について知る機会をつくる。生き物観察会、調査など。今ある自然環境を残す取り組み。太陽光パネルや山を崩している場所を調査、面積を割り出す。

●「一」事業

- ・小さい町だからこそそのサポート。町に取り組んでほしい内容を町会でまとめて話し合う場を設ける。上下水道の問題が発生した際に町に補助してもらいたいという意見が出たり、野良猫問題（保護など）活動をしている団体がまったくなく、町としての活動がもっと活性化されるとよいと思う。実際に何もできることがなくても、町民と同じ視線で問題に向き合うサポートをしてほしい。外へのアピールも必要だが、内側の充実化を図る。

●「一」事業

- ・SNSで生活やイベントのリアルを伝える。リアルだと親近感がわく。移住者のインタビューはリアル！！収益化可能。活動。SNSはデジタル化できる。フォロワー増えた。人気の投稿。動画→やる人のモチベーションにつながる。主体は役所。住民がサポートする。

中学生提案

●「町の伝統を新世代に伝えるため」事業

- ・「●の交流活動」をコンセプトとし、町の伝統的な行事や食品などのやり方、作り方を新世代に伝える交流会をし、町の伝統を守る。年に3～4回くらい交流活動をする。町の伝統を知っている人たちを集めて協力してもらう。

●「外国人との交流を増やす」事業

- ・「世界の人とつながりを持つ。英語力を上げる」をコンセプトとし、「世界とつながる 小さなまち」をスローガンとし、在日外国人を呼び込み、地元の人たちと交流をしてもらう。予算100～150万円。通訳を依頼。

●「神崎の良いところを有効に使う！」事業

- ・例、公園が多い→人がたくさん集まる。選挙や情報、イベントの掲示をする。地域の人が見ることで広まり、他の町や市から来てくれる。ボランティア活動、収益、新しい交流活動が期待される。結：公園に人が集まる。町強化。

●「クリーニングでまちおこし」事業

- ・千葉ロッテマリーンズのユニフォーム、新品のように返す。

●「一」事業

- ・住民にチケット（ディズニー）を寄附する。みんなが笑顔になるから。1年間に1回。予算600万。

●「一」事業

- ・他国の人との交流→言語が違うことにより、興味が深まる。他国の人に良さを知ってもらえる。

●「一」事業

- ・半年に1回、ふれプラでフリーマーケットをする。ほしいものを買ったり、要らないものを売ったりできる。神崎町で先生だけが来ている蛍光色の服を売る。予算0円。

●「一」事業

- ・1年間に8回、町民全員で世界1周旅行。工夫、危ない国には自由参加。頑張ってお願ひしてくれたら、遠い親戚とかも連れてきていい。希望すれば、旅行を中断してプールもできる。本当に気合を入れてお願ひしてくれたら、トランプ大統領を連れて行ける。費用1人2万。

● 「一」 事業

- ・「活性化」をコンセプトとし、内容：いろいろな方面から中学校の文化祭に参加できるようにする。パンフレットやSNSで広める。場所：神崎中、ふれあいプラザ。

● 「一」 事業

- ・県外、海外の人などと交流する。交流して、お互いの町の良いところと課題を見つけることで、良いところはそのまま町のアピールとして使えて、課題は直すことで、もっと町が良くなって、良いことづくりなので、町の人気もとても上がって有名になるかと思ったから。

● 「一」 事業

- ・他の地域の人たち（成田とか、全年齢）に、今現在の神崎町の魅力を発表して、みんなに神崎は良いところだとアピールする→周りの地域だけではなく、SNSとかにあげてもらえれば、神崎の名も広がって、いろいろなところの人たちが集まる。

● 「一」 事業

- ・それぞれの地域の改善策を出し合い、出た意見のとおり動いてみる（例、ごみが散らかっている→ごみをしっかり捨てる）→町の雰囲気良くなり、町を知るきっかけになるかもしれないから。

● 「一」 事業

- ・まず、いいことしかない。神崎町の有名なものを宣伝することで、みんなに知ってもらえる。それに、TVの宣伝だから、みんな1日に1回は見ると思った。そうすれば、地域外からの収益を期待できると思った。それに、地産地消を期待できる。そして、行動を呼びかけることで、ボランティアも来ると思ったから。

● 「一」 事業

- ・神崎町の地方愛が強い人をふれプラに集めて、どうやったら人口が増えるかなどを話し合う。

● 「一」 事業

- ・スーパーを増やす。長くする。時間。病院を増やす。神崎のものをたくさん売る。

参加者の皆様、どうもありがとうございました。